

浅間神社(笛吹市)

あさまじんじゃ

正面は国道20号線沿いの浅間神社「一の鳥居」/この浅間神社は甲斐国の一宮とされる



一の鳥居を先に進むと左手に石碑が立っている/右手奥に見える鳥居が「二の鳥居」



両方とも「浅間神社齋田」と記してある



これが「二の鳥居」/この先が浅間神社境内で正面は随神門



この石碑には「甲斐国一宮浅間神社社誌」が記されている



これが随神門











文化財保護センター

浅間神社の文化財

浅間神社 (御祭神: 木花開耶姫命)

当社は、甲斐国の一宮であり、延喜の制に於ける名神大社です。御祭神は、木花開耶姫命で、第十一代垂仁天皇八年(約一千年前)正月に東側の神山の麓に祀られました。今ここが浅間神社の奥社・山宮神社となっています。

第五十六代清和天皇の貞観七年(八六五)十月九日、木花開耶姫命を現在の地に遷し祀られています。

明治四年五月十四日、国幣中社に列格。本殿は入母屋造向拜付銅板葺、拜殿は入母屋造高棟向拜付銅板葺です。境内は、三三九五坪(二ヘクタール余)

山宮神幸祭(山宮みゆき) 三月十五日(旧暦日)

「山宮」という名前は今の浅間神社を里宮といふのに対する呼び方です。そのため神さまは、一年に一回、里宮である浅間神社から山宮神社に帰ります。これが「山宮みゆき」といってお祭りです。

大神幸祭(おみゆきさん) 川除祭 四月十五日

川除祭(水防祭)は、一宮(浅間神社)、二宮(善和神社)、三宮(甲府市の玉諸神社)の三宮を巡り行われます。赤やオレンジの装束を身にまとい、おしらいで文藝的な華やかな舞臺が交代で神楽を披露、「そごだい、そごだい」と独特の掛け声を上げながら練り歩きます。神輿は境内から担当地区を通り、石和町の石和八幡神社、甲斐市電王の信玄理公園へと移動し、治水を祈願します。

また、参拝客で賑わう浅間神社境内の神楽殿では、お神楽が奉納され、一万では子ども神輿も練り出し、家から家へと廻っています。

浅間神社摂社山宮神社本殿



(国指定重要文化財・建造物)

山宮神社の夫婦杉



(旧暦元正・天然記念物)

※上記の山宮神社本殿及び夫婦杉の場所は、「笛吹市一宮町一ノ宮1705(飛び地)」です。

浅間神社境内図



●紺紙金泥般若心経 (国指定重要文化財: 書跡)



●浅間神社拝殿 (市指定文化財: 建造物)



●武田信玄公和歌絵冊 (旧暦元正・天然記念物)

笛吹市教育委員会

太刀 (県指定文化財: 工芸)



※上段: 太刀銘国次 下段: 太刀銘一徳斎



●浅間神社の夫婦梅 (県指定天然記念物)

浅間神社境内図



随神門を潜ると正面前方には神楽殿、左手は拝殿



ここにも説明板が立っている



国重要文化財

紺紙金泥般若心経

付武田晴信自筆奉納包紙

明治三十八年四月四日指定

紺色の料紙に金泥（金字）で写経を行った般若心経で、後奈良天皇（在位一五二八～五七年）の御宸翰（天皇の自筆）による。乱世に在位した天皇は写経の功德によって万民を救済しようと、諸国一宮に般若心経の奉納を試みた。当初は全国「六十六ヶ国・島国」まで奉納することを目的としたが、奉納された記録されるのは二十四ヶ国だけで、現存するのは甲斐を含め、三河・周防・肥後・越後・伊豆・安房の七ヶ国分には足りない。

紺色の料紙には罫線が引かれ、十八行にわたって般若心経が記された後、一行おいて「甲斐国 国土安穩 万民和楽」の祈願文がある。見返しには杏仁型の図柄を一面に配する。罫線・文字・図柄ともに金泥で書かれている。

経典とともに残される包紙には、武田晴信自筆の奉納文と花押が押されている。その内容から、この般若心経は天文十九（一五五〇）年、一旦国主である晴信に渡された後、改めて甲斐一宮である浅間神社に奉納されたことがわかる。

山梨県教育委員会
笛吹市教育委員会

県指定
工芸 浅間神社所蔵の太刀ニ口

一、太刀 銘 国次

昭和四十年五月十三日指定

本刀は、武田信玄が奉納したと伝えるもので、長さ一〇四cm、反り四・五cm、鑄造り。地は板目肌鑄地は柃目肌で刃文は中直刃。茎は鱧目鷹の羽で目釘穴一ヶ、国次と二字を切る。銘ぶりは俗に民国次といわれるもので、国構えの中に「民」の字が切られる。寛正・永正頃美濃国に住んだ刀工民国次の作である。民国次の刀工としての位次は高くはないが、本刀は枝両すぐれた作品として県指定を受ける。

一、太刀 銘 一徳斎助則

昭和四十七年一月二十七日指定

本刀は、一徳斎助則の作で、長さ一一五・二cm、反り二cm、鑄造り。地は小板目細かく無地風、刃文は直刃に小互の目交り、足葉入り、刃縁匂で締まり、諸所に沸付きが地にこぼれる。

助則は、一宮町中尾の人で、本名田村義事。文政十年（一八二七）に生まれ、明治四十二年（一九〇九）没した。本刀は、明治二十三年（一八九〇）六十四歳の時の作で、浅間神社に奉納されたもの。生地中尾の田村家所蔵のもの（明治二十二年作）とともに、甲州刀の代表作として、県の指定を受ける。

昭和六十二年三月

山梨県教育委員会
山梨県教育委員会

これが拝殿/1672年の造営



拝殿と神楽殿(右手)



説明板がある



町指定有形文化財(建造物)

浅間神社拝殿 1棟

附旧材1枚(寛文拾貳壬子年五月朔日墨書)

平成5年2月9日指定

この建物は、東向きに建てられていて、桁行7間、梁間3間の一重入母屋造で、正面中央1間に唐破風造の向拝が付き、屋根は檜皮葺の上に銅版をかぶせている。

正面を意識した美しい造りの平安時代風の建築で、いかにも甲斐第一宮としての格式にふさわしい拝殿といえる。

寛文12年という建築年代もはっきりとしており、江戸時代初期の建築様式の変遷を伝え、さらに、一宮の格式ある拝殿建築の一例として本殿(宝暦4年)及び隋神門とともに価値が高く貴重な文化財として、町の指定を受けた。

平成6年3月

一宮町教育委員会

宝物殿と神楽殿(右手)



本殿



本殿/手前には「夫婦ウメ」がある



県指定文化財

浅間神社の夫婦ウメ^{めおと}

所有者 浅間神社

昭和三十五年十一月七日指定

本樹は、根周りが一m、地上八〇cmのところまで四本の枝に分かれ、高さは七mを計る。花は十二月下旬から咲きはじめ、二月中旬頃満開になる。花径一・五cmの紅色の八重咲でめしべが二本ある。果実は二本のめしべが実を結ぶので一花で二果を結ぶ珍種である。子房(実になる部分)が完全に分かれていないため、実も完全には分離せず側面で癒着しているのが特徴である。早くから咲きはじめため気象条件に左右され易く収穫量は一定しない。二つ結実するのでも全体の約七割程である。

古来祭神(木花開耶姫命^{このはなまきくやひめのみこと})のご神徳による子授けの靈能ありと信じられ、参拝祈願する人がある。例年旧暦の四月の第二亥日に折枝の神事を行い実を収穫する。

花も果実も珍しく学術上も非常に価値があり、しかも本県の夫婦ウメの中でも代表的なものとして貴重である。

平成一年三月

山梨県教育委員会

笛吹市教育委員会

正面は「陰陽石」



アップで見る



これは「子持石」



参考ホームページ

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%85%E9%96%93%E7%A5%9E%E7%A4%BE\(%E7%AC%9B%E5%90%B9%E5%B8%82\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%85%E9%96%93%E7%A5%9E%E7%A4%BE(%E7%AC%9B%E5%90%B9%E5%B8%82))

http://www.genbu.net/data/kai/asama_title.htm

<http://asamajinja.jp/index.html>

<http://homepage2.nifty.com/ssry/u/travel/yamanashi/kai-ichimiya-asama1.html>

http://ogino.digi2.jp/chuubu/yamanashi/fuefuki_shi/kainokuni_ichinomiya_asama_zinzya/index.html

<http://ameblo.jp/okasurfer-bmw/entry-11391162806.html>

<http://blogs.yahoo.co.jp/kazuki133/53183945.html>

